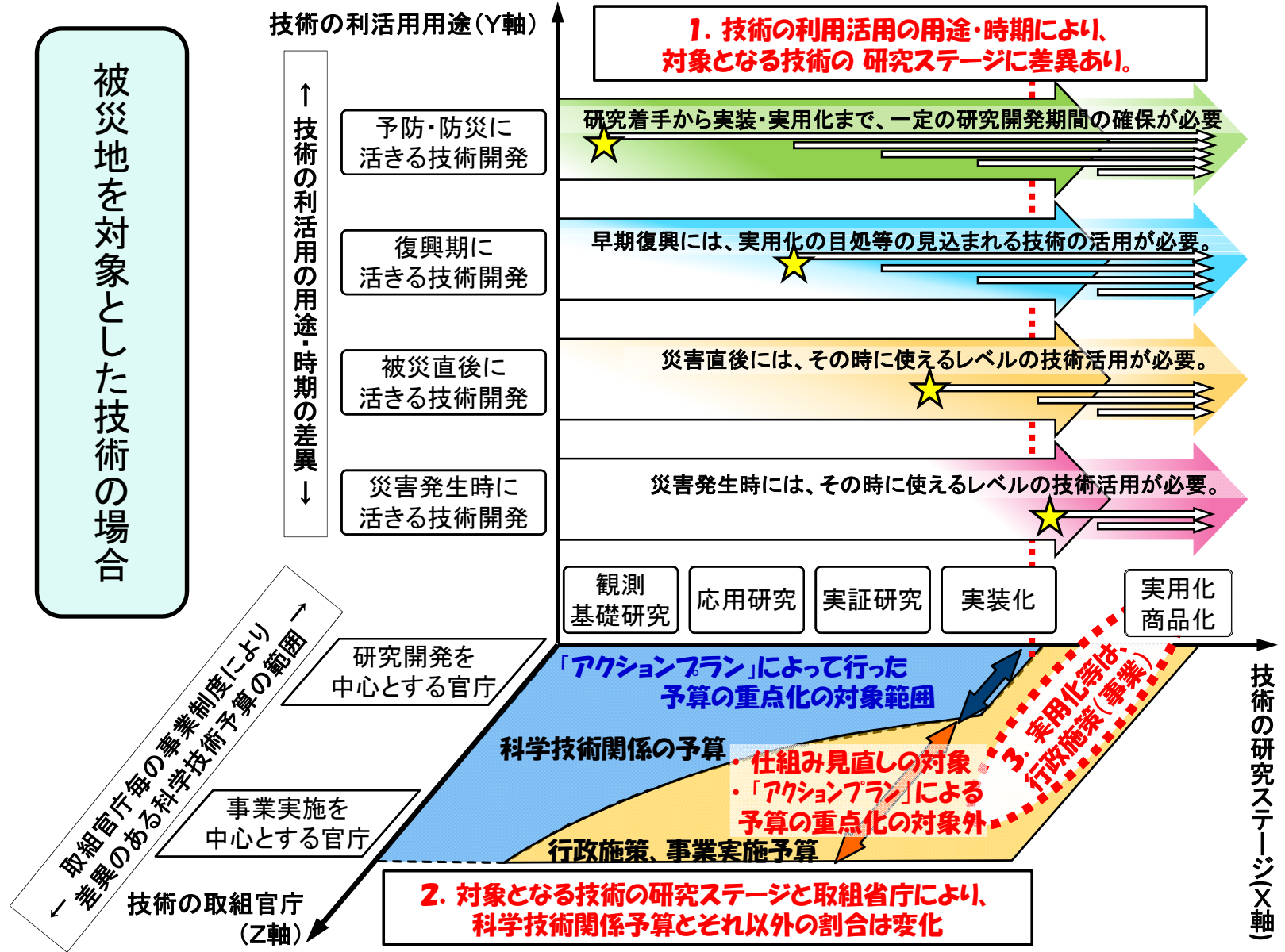


1. 今後の科学技術政策におけるアクションプランの考え方について

資料9-1-1

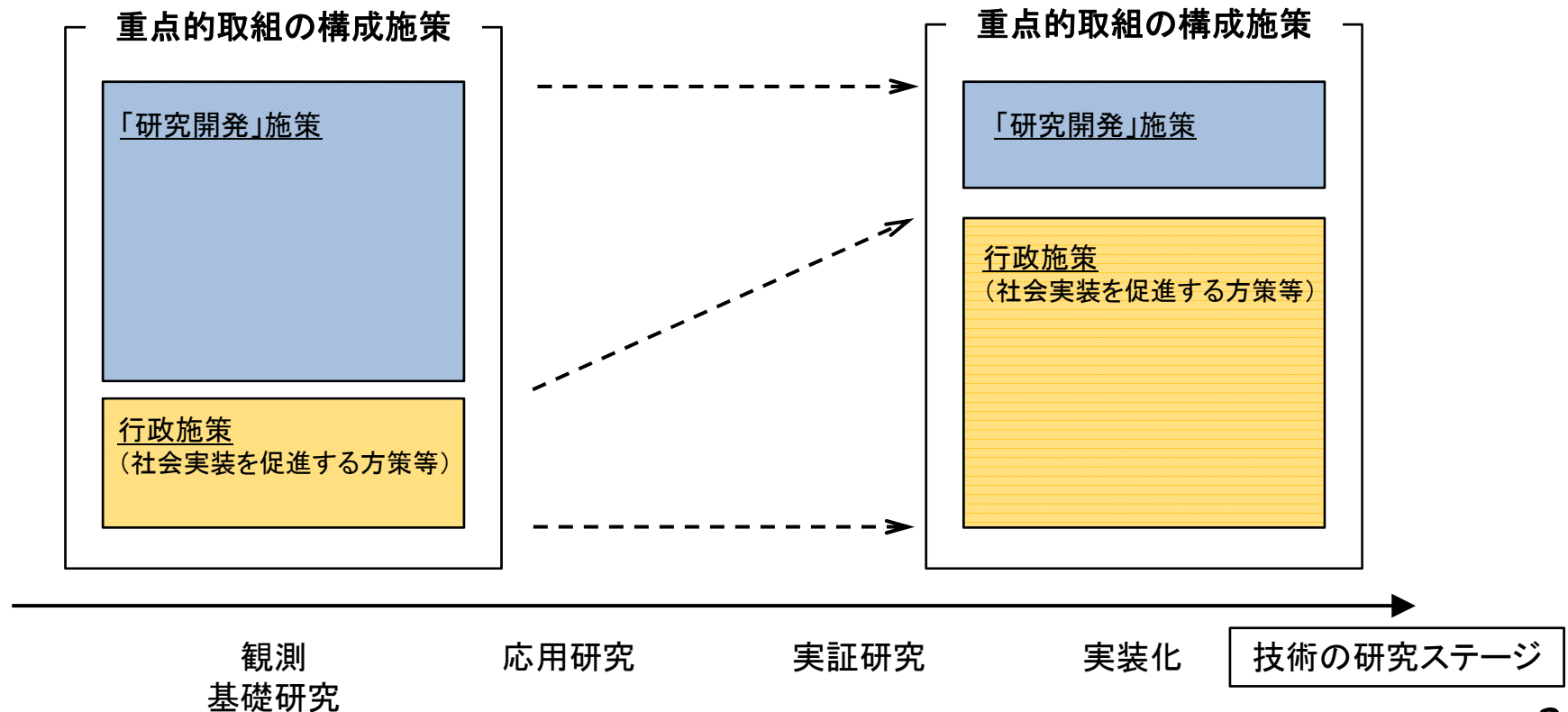
(1) 被災地の復興・再生を加速させるための協議会の協議対象技術の位置付け・範囲

技術の利活用用途(必要時期)～研究ステージ～取組官庁 により異なる位置付け・有効性及び 科学技術関係予算の重点化対象の範囲



(2) 技術の研究ステージと科学技術関係予算の割合の変化(イメージ)

- ① 技術の研究ステージが基礎研究にある初期段階は、取組推進に占める「研究開発」そのものの役割の割合が高い。
- ② 技術の研究ステージが進捗し、社会への実装化が近づくと、行政施策(社会実装を促進する方策等)の割合が高まる。



(3) アクションプランにおける「重点的取組」と、その構成施策の誘導の姿

- ① アクションプランの「重点的取組」には、取組名と、その趣旨(行動シナリオ)を記載。
- ② 「重点的取組」の趣旨(行動シナリオ)では、「研究開発」の施策だけでなく、「研究開発」成果の早期活用あるいは着実な社会実装につなげる方策や、実装により社会にもたらされる効果指標等にも言及。



- (a) 「重点的取組」の実効性向上のため、「重点的取組」毎の趣旨(行動シナリオ)に沿った施策の構成を誘導。(施策誘導)
- (b) 科学技術関係予算による施策については、予算重点化の対象に。(予算重点化)

アクションプランとして、目指すべき社会の姿、政策課題、「重点的取組」とその行動シナリオを決定



「重点的取組」の行動シナリオに沿って、総合科学技術会議と各省が協力して施策を構成

